

☆「ビジネス」  
32, 4, 1  
創刊号

# 原子力をめぐる

## 三つの話題

原子力界のすそ野

間 弘 一 久 明  
(本 林)

原子力界は相変らず騒々しい。

毎日毎日、新聞に、殺人強盗の記事のないことはあっても、原子力の記事ののらないことは、まずないといつてよいだろう。「原子力界」という言葉を私は使ったが、原子力というものはおそろしく広いすそ野をもっている。

原子力に関係のある業界が集まって、昨年三月にできた日本原子力産業会議というのがあるが、これは現在六百社以上が会員として参加している。そのなかに、帝国ホテルや歌舞伎座まで入っていることから、ある人はこれを評して「風の吹くのをまつ補屋的態勢」

といったが、私はやはり帝国ホテルや歌舞伎座も原子力に関心をもち権利があるのだと弁護してやりたいのだ。

じつさい、昨年原子力のために来日した外人は数十名を下らないが、これらはみんなホテルや劇場の御世話になっていく。それだけならまだいいのだが、日本の原子力はこれらの紅毛の客人の一手一投足にはなだしく影響されてきた。日本の政治家や財界人は、百人の日本の研究者の意見よりも一人の外人の英語にまどわされてきたのである。ホテルや劇場が快適ならば、それは日本の原子力の将来にとってもめでたいということになる。

なお今年五月には、日本の先輩

格である米国原子力産業会議とともに、東京大阪などで、日米原子力産業会議の合同大会が開かれるから、原子力界も紅毛碧眼で一きわにぎわうことだろう。

こういうふうを書く、日本の原子力の指導者たちはよほどだらしない連中だということになる。だが、あなたが罪は彼らだけにあるわけではないともいえる。それは、今日の世界の原子力はあまりにもポリテイカルであるからだ。

われわれは「世界最初の」原子力発電所というのを何度きかされただろうか。「世界最初の原子力発電所」はソ連にもあれば、イギリスにもあるし、アメリカだってそれをもっている。あるイギリスの原子力専門誌が、「世界最初の」という言葉の乱用について」という論文をかかげているのをみたがこれは笑ってはすまされない問題を含んでいる。

たったこの間まで原子兵器の競争に浮身をやつしていたこれらの大国が、どうしてまた平和利用でむきになりはじめたのだろうか。それが「世界最初の」であるかは別として、米、英、ソが最初の発

電所に着手したのが、申し合せたように一九五三年であるのは、ちょっと面白い。そしてその年には原子兵器の終着駅といわれる超水爆ができあがってその実験もおわっている。

そこで「原子兵器飽和説」というのが生れて、原子力にも平和時代がきたのかと思わせたのだが、その後になつても、依然としてくさいマクドナルドを食わされた日本人にとっては、なかなか釈然としないものがある。それどころか、イギリスのゴールドホール原子力発電所の改良型の購入調査のため訪英した調査団(团长石川一郎氏)には、気持の悪いくらいい愛想をみせたイギリスの紳士も、日本のクリスマス島の水爆実験中止申入れには、仏頂面で返事もしてくれない。これは、イギリス紳士の二面相であるとともに、原子力の二面相でもあるわけだ。

☆ ポリテイカル・アトムと  
コマーシャル・アトム

☆ ポリテイカル・アトムも、昨年くらいまでは、せいぜい国同士の

いがみ合いですんでいた。

「イギリスの天然ウラン型は自動車ではいへばフォードのT型、まもなく恥しくて街も歩けなくなる」とアメリカがくさせば、イギリスはイギリスで、天然ウラン型こそ現在唯一の安全にして経済的な発電炉であると宣伝相つとめるという次第。

ともかくイギリス人がねばり強く天然ウラン型のゴールドホールを立派に仕上げたことは、たしかにアメリカにとってこたえたがそれにもまして、日本が突然イギリスに向きをかえ、アメリカの濃縮ウラン型をそでにしかけたのはショック以上のものだった。当時正力原子力委員長が「世界の原子力を動かすものは俺だ」と自慢したが、たしかに彼の唯一の功績といつてもよいだろう。いささかヒョウタンから駒、のきらいはあるけれども――。

それが今年になって、様相はちよつと深刻になってきた。いままでの国単位の合戦が、同じ国の会社同士の完結競争になってきたからだ。まさに骨肉相食むの貌がある。アメリカでいま最も力を入

四開に発散して莫大な損害がおきる可能性がある。原子炉技術などの進歩によってそういう可能性は少なくなりつつあるのだが、まだ保険業者がそういう危険を引き受けるまでにはなっていないし政府の補償政策もはっきりしていないのは困るという言い分である。

放射能にたいして心配しているのは何れも日本国民だけではないことを知って心強い。第三位以下は、

(4) 「秘密および機密政策」

(5) 「人員不足」

因 「政府の政策実施の欠陥」

ところで、回答をわけて電力会社からきた回答を集計してみるとちょっと特色がある。すなわち第一位は「資本費が高いこと」という比較的正常的なものだが、すぐ第二位には、

「公共電力が民間電力かの論争の影響」

という。つまり、原子力発電を国家資本でやるべきであるか、民間資本でいくべきかという論争に

結論がでていないのは、まずいというのだ。

ビシネス 32.4